

元金融担当大臣・内閣総理大臣補佐官

伊藤達也

VOICE NET

号外

発行所：フォーラム・フロンティア 〒182・0024 調布市布田1・3・1ダイヤビル2F TEL042・499・0501 FAX042・481・5992 メールtatsuya@tatsuyaito.com

強い日本を取り戻す。

経済に力こぶ

明日は、今日よりきっと良くなる。そう信じることでできる日本を築く。そして正直に努力する人が報われる公正な社会をつくる。まずは民間活力を生かし、経済を立て直す。これが、私、伊藤達也が皆さまとかわす約束です。

処方箋はできています。デフレ脱却、円高是正は最優先の課題であり、政府・日銀一体となって取り組みます。また民間の力を最大限に引き出す規制改革や税制改革などで力強い成長を取り戻します。日本経済はこの三年間で一割も縮小してしまいました。

外交に力相撲

経済力の低下は、相次ぐ領土が脅かされる事件の背景でもあります。「国際社会での日本の影響力

も以前ほどではない」。韓国の李明博大統領は言い放ち、わが国固有の領土である竹島に上陸しました。

かけがえのない故郷を守るため、日米同盟を軸に国家の安全と繁栄に力を尽くします。とりわけロシア、中国、韓国には領土問題を含め、政治、経済ともに力相撲で対していきたいと考えます。

国を動かす力仕事

人口減少、低成長、財政難という日本の三重苦をはねのける力が政治から失われ、国際社会からの信用も低下しています。旧態依然とした利益誘導の政治に回帰するのではなく、決められない未熟な政治も終わりにします。国家経営の経験がなく覚悟もない政治家に日本の舵取りを任せることはでき

ません。

特に、エネルギー、年金、医療、介護の社会保障制度を信頼できるものにしていきます。

議席を失って三年。ピザ店経営や大学の教員で生計を立て、ひたすら地域を歩いています。「以前よりも生活が苦しくなった」「希望が見えなくなってきた」という声を多く伺ってきました。現場の声、地域の声を政策にして、もう一度、国政に皆様の声を届けたい。どんなに難しい課題にも正面から取り組み、日本の課題解決に挑戦したい。

この三年間が、私の新たな原点です。

強くたくましく生きる日本人の生活を取り戻すため、全力を尽くしてまいります。

伊藤達也の原点・信条・実績

難病で倒れた母親の看病で感じた医療制度の矛盾を正す

高校生のとき母親が難病で倒れ、多くの人に支えられながらも3年後に母親を失いました。医療制度の矛盾に直面し福祉政策の大切さを痛感したことが、政治への道を歩むことを決意した原点です。

安心できる社会保障制度につくりかえるため、総理補佐官として、年金、医療・介護、子育て支援の包括的将来像を提示しました。

「知恵なき政治の末路が増税だ」

師・松下幸之助から、できるだけ低い税金で、できるだけ高い行政サービスを行うことが政治の要諦であると教えられました。

バブル崩壊後の長い低迷に苦しむ日本経済を立て直すため、小泉内閣にて金融担当大臣に就任し、2002～2004年にかけて不良債権問題に取り組みました。マイナス成長だった日本経済は実質2%成長に転じ、不況から脱出していきます。その後、経済成長戦略と歳出改革を組み合わせた政策運営を行った結果、増税することなく、約21兆円の財政再建を実現しました。

ところが、こうした経済財政運営の枠組みがなくなり、政権交代後、財政赤字は一気に拡大してしまいました。



英国ビジネス紙「フィナンシャル・タイムズ」には、日本の危機終結を宣言する大臣として取り上げられました。

被爆者の声を議員立法に

国会議員としてはじめて取り組んだ議員立法が被爆者援護法でした。被爆者一人ひとりの声を丁寧にお聞きし、被爆50年にして制定することができました。

官民の規制を排除する

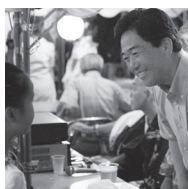
20代の頃、米国でスティーブ・ジョブズやビル・ゲイツに出会い、新しいビジネスを興していく挑戦に魂を揺さぶられました。

1999～2002年にかけて、IT政策を担当し、ブロードバンドの拡大を阻害していた官民の規制を排除しました。この規制改革により、日本のブロードバンド環境は世界一になり、携帯電話やスマートフォン、スイカなど新しい事業が一気に広がりました。

日本の持つ潜在的な力を引き出していくのが、本当の成長戦略なのだと考えています。

技術革新を加速する

新エネルギーの開発と普及を税制や予算などで支援してきました。また「新エネ等電気利用法」制定にも取り組みました。福島原発事故を経験し、地球に負担をかけない新たなエネルギーの比率を増やしていくための技術革新を加速させたいと思います。



伊藤達也の経歴



「政治を志すなら生活費ぐらい自分で稼ぎなさい」との師・松下幸之助の教えに従い、中古機材をかき集めて夫婦でピザ店をはじめました。生まれたばかりの長男を背負い、資金繰りに追われながらピザを焼き、配達する日々でした。

この経験が、政策立案の土台になっています。

1961年7月6日生まれ

調布一小、調布中、を経て慶大法卒

松下政経塾（5期生）

夫婦でピザ屋を開店

1993年 衆議院議員初当選（以来、5期当選）

2000年 通商産業政務次官

2001年 自民党e-Japan特命委員会 事務局長

2002年～金融・経済財政政策担当副大臣

2004年 金融担当大臣

2005年 自民党政調会長補佐

2006年 衆議院財務金融委員長

2008年 内閣総理大臣補佐官

現在

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授

関西大学院・千葉商科大学 客員教授

政策シンクタンクPHP総研 特別研究員

自民党東京都第22選挙区支部長

伊藤達也は約束します。

○デフレ脱却、円高是正が消費税率引き上げの絶対条件です。税率引き上げ前に必ず景気を良くします。

○教育が未来の日本を築きます。公立学校の改革、給付型奨学金ですべての子どもたちに高い質の教育を受けるチャンスをつくります。

○手当より仕事。働く力を高め、格差を固定しない雇用環境をつくります。

○幼児教育を充実するとともに保育所や学童保育の拡充等をすすめ子どもたちの育ちを支えます。

○救急医療を充実し、在宅医療・介護施設を地域単位でスウェーデン並みに整備します。

○将来にわたって持続可能な年金制度を超党派で構築します。

○エコでもある地産地消をすすめ食料自給率を向上させます。

○福島原発事故の経験をふまえ新エネルギーの比率を増やす技術革新を加速します。

○日本の領土と主権を守り、総合的な安全保障政策を確立します。

○世界の財政再建に習い徹底した無駄の排除と経済成長で財政健全化に努め、増税分は社会保障に充当します。

○霞が関改革と地域主権型道州制を推進し国のかたちを新たにします。

○国会のスリム化と機能強化ならびに公務員制度改革をすすめ政治や行政の信頼を取り戻します。



伊藤達也事務所

☎182・0024 調布市布田1・3・1ダイヤビル2F ☎042・499・0501 FAX042・481・5992 メール tatsuya@tatsuyaito.com